

農村地区における中学生のスポーツに対する意識調査

— A市Y地区の場合 —

The opinion poll to a junior high school student's sport in a farm village area

— In the case of an A city Y area —

体育学部体育学科

山本 孔一

YAMAMOTO, Koichi

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

キーワード：学校部活動, スポーツ, 地域

Abstract :

“Sport declaration Japan” was announced. It includes what the Japanese Sports should do next 100 years, and it mentions that the necessity of the involvement of sports and community life. In other words, the regional sports activities that will create rich welfare are needed. On the average, children who become actors of the creation of the regional sports activities are becoming weak in communication skills difficult to confront the things in their own judgment. Although children can act in response to instructions, they cannot act if there is no indication. This is because the present-day children are leaving from sport. They prefer to play home with TV game, mobile phone, and personal computer. Therefore, the problem of the fall of communications skills and athletic ability is arising. Moreover, while living in material rich period, most of their time is spend at school and cram school, and that causes their sleeping hours to be short. This could be a reason for the increasing number of children who are taking their rest on Saturday morning. In addition, they are watching television and other mass-media, and their virtual experience and indirect experience are increasing. On the other hand, an experience in actual life and natural experience are decreasing. Thus, spending time with family is downward tendency.

The research could be used as the cities, towns and villages which are trying to activate area by the Overall-Pattern Area Sports Recreation Club. For example, Y Sports Recreation Club in the city A area Y.

Keywords : School club activities, Sports, Area

I. 研究の動機および目的

日本のスポーツ界が、次の100年に向けてどのような使命を自覚し、行動していくか、その指針となる「スポーツ宣言日本」が発表された。その使命の一つとして示されたスポーツと地域生活のかかわり、言い換えれば、公正で福祉豊かな地域をつくるスポーツが必要とされている。そしてその担い手となる子どもたちは、平均して、コミュニケーションをとる事が苦手であ

り、自分自身の判断で物事に立ち向かう事が困難になりつつある。指示を受けて行動する事が出来る反面、指示がなく、他者が用意した環境がない場合、自分でも何をやりたいのかわからないということが増えてきている。その理由の一つに、現代の子供のスポーツ離れが大きな影響を及ぼしている。現代の子供は外で遊ぶ・集団で行動をする事をせず、自宅でのテレビゲームや、携帯電話・パーソナルコンピューターを利用してのコミュニケーションなどを好んでいる傾向が

みられる。その影響により、コミュニケーション能力の低下や運動能力の低下という大きな問題が生じてきている。

また、物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方で、学校での生活、塾や自宅での勉強にかなりの時間をとられ、睡眠時間が必ずしも十分でないなど、ゆとりのない忙しい生活を送っている。そのためか、かなりの子供たちが、土曜日の午前中を「ゆっくり休養」する時間に当てている。また、テレビなどマスメディアとの接触にかなりの時間をとり、疑似体験や間接体験が多くなる一方で、生活体験・自然体験が不足し、家族で過ごす時間も減少傾向という状況がうかがえる。

また、新しい学習指導要領においても、小学校低・中学年や中学校において体育・保健体育の授業時数が増加され、「体づくり運動」の領域が小学校低学年から必修化されるなど、ますます体育・保健体育の授業の重要性が高まってきている。岡山県教育委員会では、小学校から高等学校までの児童・生徒の体力の向上を図るため、体育・保健体育の授業の一層の充実を図り、児童生徒一人一人が課題をもって主体的に体づくりに取り組む事ができるようにするとともに、教科外での活動機会の充実など学校教育活動全体を通じた取り組みを推進する「いきいき岡山っ子体力アッププラン」をスタートさせた。

そこで、本研究は、本学近辺のA市Y地区の中学生を対象にスポーツ意識調査を実施し、地域における現代スポーツの問題点及び課題を整理し、A市Y地区Yスポレククラブのように総合型地域スポーツクラブで地区を活性化しようとしている市町村の参考となる資料を提示する。

II. 先行研究のレビュー

これまで中学生に対するスポーツの意識調査はほとんど行われておらず、高校生に対するスポーツの意識調査が数件行われているだけである。

主に1980年1月に行われた犬飼の「高校生の生活状況とスポーツ満足度に関する調査研究」や1981年12月に行われた外間の「沖縄県高校生のスポーツ調査」などがある。

論文の内容を先行研究したが、今現在の中学生及び高校生の現状とは異なっているため、比較するには難しいといえる。しかし、質問内容を様々な方向で比較する点や生活環境による比較などの良い点も見られ

た。

- ①スポーツの満足度とその理由を具体的にしている。
- ②県のスポーツに対する対策、関心度などを表示している。
- ③校内・校外に分けてスポーツを行わない理由を比較させている。
- ④校外の運動種目を挙げて、校内の部活動に不足している点を挙げている。
- ⑤運動部経験年数による生徒の意識の違いを比較している。
- ⑥余暇時の行動パターンを調べている。以上の6点を参考に研究を進めていきたい。本研究ではスポーツを様々な角度から見て、学校部活動の不満や満足度・日常生活とスポーツの関わりについて取り組んでいきたい。

III. A市のスポーツの現状と課題

1. 現状と課題

(1) 現状

①スポーツを取りまく社会環境

近年、少子高齢化や高度情報化、国際化などが進み、人々の価値観やライフスタイルが多様化するなかで、スポーツを取り巻く環境においても次のような変化が見られる。

②少子化と子どものスポーツ環境

学習塾等の学校外学習やテレビゲーム等の室内遊びの増加による外遊びやスポーツ活動時間の減少、空き地などの手軽に遊べる場所の減少に加え、子どもの数の減少によって地域のスポーツ団体が成立しない状況や学校運動部活動の休部・廃部が増加するなど、子どもたちの運動する機会が減少している。

また、少年期のスポーツ活動の大切さが言われるなかで、地域での指導者不足からスポーツをする楽しさに触れる機会も少なくなり、子どもたちのスポーツ離れが進んでいる。さらに、子どもの体力・運動能力の低下傾向が見られ、そのなかでも運動する子どもとしない子どもの格差が顕著になり二極化傾向が進みつつある。

③体力の低下とストレスの増大

生活が便利になった事にとともに、近い距離でも自動車で出かけるなど、日常生活において体を動かす機会が減少している。その結果、人々の体力や運動能力の低下を招いている。

また、現代はストレス社会といわれるように、学校

や職場、地域社会、さらに家庭においても、人々は様々な精神的ストレスを抱えて生活をしている。こうしたストレスの増大に加え、食生活の変化などから生活習慣病などの病気にかかる人が増える傾向にあるなかで、心身両面にわたる健康の保持増進や体力の向上に役立つスポーツの重要性が改めて見直されつつある。

④生涯スポーツの推進状況

国の「スポーツ振興基本計画」に示されているように、市民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ事のできる生涯スポーツ社会の実現を目指すためには、身近な地域において子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人が（多種目）、それぞれの趣向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成が必要となる。A市においても「A市総合計画」の中でその設立がスポーツ振興の重点施策として位置づけられており、現在2つのクラブが設立の準備をしている。しかし、「総合型地域スポーツクラブ」についての認知度は意識調査にも見られるように低く、普及啓発を図る必要がある。

また、市民により自主的・主体的に運営される「自主財源自主運営」のクラブとなるため、設立には経営能力を有する専門的な人材や市民交流の場として期待される活動拠点の確保が必要となる。

(2) 課題

①学校の体育・スポーツの状況

A市の児童・生徒については、全国的な傾向と同様に、体力・運動能力は低下傾向にあり、この現状に歯止めをかけ、上昇傾向に転じる方策が必要となる。ライフスタイルの変化により体を動かす機会が減少しているなか、児童・生徒の体を動かす場や機会をできる限り多く確保する観点から、体育の授業だけでなく、総合的な学習の時間、運動部活動など学校教育活動全体を通じて、生涯にわたるスポーツライフの基礎を培うとともに、体力の向上を図る事について、各学校の積極的な取り組みが必要となる。

中学校の運動部活動では少子化に伴う生徒数の減少により参加生徒数も減少し、単独校によるチーム編成が困難な状態が生じている。また教員の実技指導力不足などの要因で、十分な指導ができないなど生徒のニーズに対応できない状況もある。そうしたなかで、一部の部活動には外部指導者が活用されているが、今後さらに外部指導者制度の導入を進めていく必要がある。また、このような制度構築に向けては、練習や大

会参加における責任者の問題や人材確保などの検討課題があり、体育協会や総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団との連携も必要となる。

IV. 調査方法

(1) 調査対象：岡山県A市立Y中学校の生徒99名

(2) 調査時期：2012年9月

(3) 調査方法：質問紙による配票調査

(4) 回収数：94部（回収率94.9%）

(5) 分析の視点

①性別：男性（N = 43 45.7%）

女性（N = 51 54.3%）

②学年別

《表1》

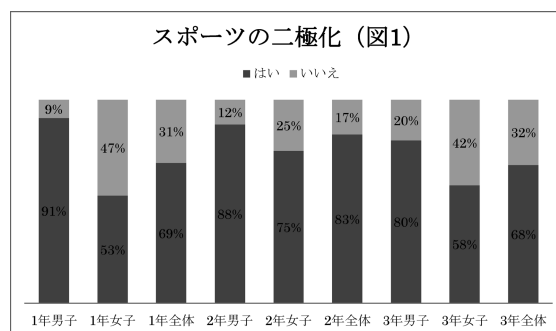
項目	男	女	まとめ
1年	11人	15人	26人
2年	17人	12人	29人
3年	15人	24人	39人
合計	43人	51人	94人

V. 結果および考察

1. 学生のスポーツの二極化

(1) あなたはスポーツが好きですか？

全体的にスポーツが好きな生徒が多い。しかし1年・3年生の女子のスポーツ嫌いが目立つ。

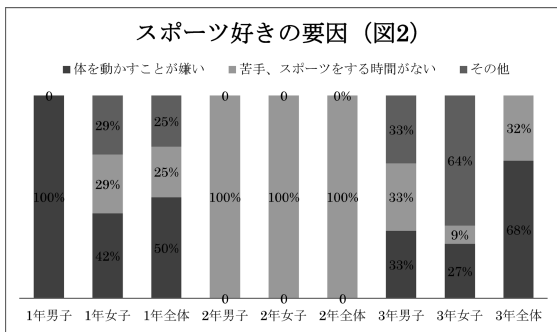


《図1》

2. スポーツの二極化の要因

(1) スポーツ好きの要因

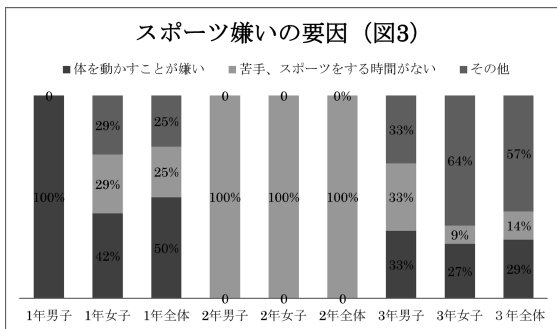
各学年、「体を動かすことが好き」と答えた人が大半を占めているが、学年が上がるにつれてストレス発散を目的とする人が増加傾向にある。



《図2》

(2) スポーツ嫌いの要因

1・2年生は「体を動かすことが嫌い」また、「スポーツが苦手、スポーツをする時間がない」という傾向がみられるが3年生になると「だるい、疲れる、面倒くさい」という意識が強く見られる。



《図3》

【1年全体】

- ①体を動かすことが嫌い (50%)
- ②苦手、スポーツをする時間がない (25%)
- ③その他 (25%) 向いていない、体が不自由であり動けない

【2年全体】

- ①体を動かすことが嫌い (100%)
- ②苦手、スポーツをする時間がない (0%)
- ③その他 (0%)

【3年全体】

- ①体を動かすことが嫌い (29%)
- ②苦手、スポーツをする時間がない (14%)
- ③その他 (57%) 運動苦手、疲れる、だるい、面倒くさい

3. 現在のスポーツ状況

(1) スポーツ・運動種目

野球に多く偏り、また授業で経験したことのあるバドミントンを競技している人が多くみられる特徴がある。

《表2》

項目	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
野球	55%	0	44%	0	22%	0
サッカー	0	0	0	0	4%	0
バスケットボール	0	6%	0	0	4%	0
水泳	0	0	0	10%	0	0
テニス	27%	18%	38%	40%	33%	22%
ラグビー	0	0	0	0	0	0
陸上	0	0	0	0	0	0
バレーボール	0	0	0	0	4%	17%
卓球	0	0	0	0	0	0
剣道	18%	0	12%	0	8%	4%
柔道	0	0	0	0	0	0
ハンドボール	0	0	0	0	0	0
自転車競技	0	0	0	0	0	4%
ソフトボール	0	0	0	0	0	0
散歩	0	41%	6%	30%	4%	22%
ジョギング	0	6%	0	20%	4%	0
その他	0	29%	0	0	17%	31%

【1年全体】

①散歩 (25%) ②野球 (21%) ③テニス (21%)
 ④その他 (18%) ⑤バスケットボール (4%) ⑥
 ジョギング (4%) ⑦バレーボール (0%)・卓球
 (0%)・陸上 (0%)・剣道 (0%)・柔道 (0%)・
 ハンドボール (0%)・サッカー (0%)・自転車競技
 (0%)・ソフトボール (0%)・水泳 (0%)・ラグ
 ビー (0%)

*その他は、全てバドミントン

【2年全体】

①テニス (31%) ②野球 (22%) ③その他 (19%)
 ④散歩 (13%) ⑤剣道 (6%) ⑥ジョギング
 (6%) ⑦水泳 (3%) ⑧ラグビー (0%)・サッ
 カー (0%)・陸上 (0%)・バレーボール (0%)・卓
 球 (0%)・柔道 (0%)・ハンドボール (0%)・バ
 スケットボール (0%)・自転車競技 (0%)・ソフト
 ボール (0%)

*その他は、全てバドミントン

【3年全体】

①テニス (28%) ②その他 (23%) ③散歩 (13%)
 ④野球 (11%)・バレーボール (11%) ⑥サッ
 カー (2%)・バスケットボール (2%) 自転車競技
 (2%)・ジョギング (2%) ⑩ラグビー (0%)・陸
 上 (0%)・卓球 (0%)・水泳 (0%)・剣道 (0%)・
 柔道 (0%)・ハンドボール (0%)・ソフトボール
 (0%)

*その他 弓道, バドミントン, ダンス

(2)好きなスポーツの種類

男子全体では、野球、サッカー、バスケットボ
 ール、女子全体では、水泳、テニス、バスケットボ
 ール、バレーボールが、人気がある。全体的には、野
 球、サッカー、バスケットボールといったメジャー競
 技または、水泳、テニス、陸上など少人数でできるス
 ポーツを好む傾向がある。

《表3》

種目	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
野球	21%	3%	19%	5%	19%	0
サッカー	21%	6%	26%	5%	3%	0
バスケットボール	11%	14%	19%	14%	13%	5%
水泳	11%	11%	5%	9%	6%	17%
テニス	11%	14%	19%	9%	10%	14%
ラグビー	0	0	0	0	3%	0
陸上	4%	9%	0	19%	0	5%
バレーボール	0	0	0	6%	3%	14%
卓球	11%	6%	5%	0	18%	5%
剣道	4%	3%	7%	0	0	3%
柔道	0	3%	0	0	0	0
ハンドボール	0	0	0	0	0	0
自転車競技	0	0	0	0	0	0
ソフトボール	0	0	0	0	3%	3%
散歩	6%	11%	0	14%	3%	9%
ジョギング	0	3%	0	19%	3%	3%
なし	0	3%	0	0	6%	5%
その他	0	11%	0	0	10%	17%
未回答	0	3%	0	0	0	0

【1年全体】

①テニス (13%) ②サッカー (13%) ③バスケット
 ボール (13%) ④水泳 (11%) ⑤野球 (11%) ⑥
 散歩 (10%) ⑦卓球 (8%) ⑧陸上 (6%) ⑨剣
 道 (3%) ⑩柔道 (2%)・ジョギング (2%)・な

し (2%) ⑬ハンドボール (0%)・バレーボール
 (0%)・自転車競技 (0%)・ソフトボール (0%)・
 ラグビー (0%)

*その他 (6%)・未回答 (2%) その他は、全てバ
 ドミントン

【2年全体】

①サッカー (19%) ②バスケットボール (18%) ③テニス (16%) ④野球 (15%) ⑤水泳 (6%)・陸上 (6%)・ジョギング (6%) ⑧剣道 (4%)・散歩 (4%) ⑩卓球 (3%) ⑪バレーボール (1%) ⑫ラグビー (0%)・柔道 (0%)・ハンドボール (0%)・自転車競技 (0%)・ソフトボール (0%)・なし (0%)・その他 (0%)

【3年全体】

①その他 (14%) ②水泳 (13%)・サッカー (13%)

④テニス (12%) ⑤散歩 (10%) ⑥卓球 (9%)・バレーボール (9%) ⑧野球 (8%)・バスケットボール (8%) ⑩なし (5%) ⑪陸上 (3%)・ソフトボール (3%)・ジョギング (3%) ⑭ラグビー (1%)・剣道 (1%) ⑯柔道 (0%)・ハンドボール (0%)・自転車競技 (0%)

*その他 弓道, バドミントン, ボーリング, ダンス, うらじゃ, HIPHOP

(3) 嫌いなスポーツの種類

《表4》

種目	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
野球	8%	13%	3%	7%	6%	5%
サッカー	0	9%	5%	0	3%	10%
バスケットボール	0	3%	3%	7%	3%	4%
水泳	0	11%	5%	7%	6%	4%
テニス	0	0	3%	0	3%	2%
ラグビー	8%	13%	5%	4%	3%	9%
陸上	8%	9%	13%	7%	12%	4%
バレーボール	15%	9%	21%	11%	3%	5%
卓球	8%	0	0	0	0	2%
剣道	15%	3%	15%	30%	12%	18%
柔道	0	6%	10%	15%	15%	15%
ハンドボール	8%	3%	3%	0	0	4%
自転車競技	0	3%	3%	4%	10%	0
ソフトボール	8%	3%	3%	0	0	0
散歩	0	0	0	0	6%	0
ジョギング	15%	9%	0	4%	3%	7%
なし	7%	6%	5%	4%	15%	5%
その他	0	0	0	0	0	4%
未回答	0	0	3%	0	0	2%

コンタクトスポーツを嫌う傾向がある。

【1年全体】

①野球 (13%)・ラグビー (13%) ③バレーボール (10%)・ジョギング (10%) ⑤陸上 (8%)・水泳 (8%) ⑦サッカー (6%)・剣道 (6%)・なし (6%) ⑩柔道 (4%)・ハンドボール (4%)・ソフトボール (4%) ⑬卓球 (2%)・自転車競技 (2%)・バスケットボール (2%) ⑯テニス (0%)・散歩 (0%)・その他 (0%)

【2年全体】

①剣道 (22%) ②バレーボール (17%) ③柔道 (12%) ④陸上 (11%) ⑤水泳 (6%) ⑥ラグビー

(5%)・野球 (5%)・バスケットボール (5%)・なし (5%) ⑩サッカー (3%)・自転車競技 (3%) ⑫ハンドボール (2%)・テニス (2%)・ソフトボール (2%)・ジョギング (2%) ⑯卓球 (0%)・散歩 (0%)・その他 (0%) 未回答 (2%)

【3年全体】

①剣道 (16%) ②柔道 (15%) ③なし (9%) ④サッカー (8%)・バスケットボール (3%) ⑤ラグビー (7%)・陸上 (7%) ⑦野球 (6%)・ジョギング (6%) ⑨バレーボール (5%)・水泳 (5%) ⑪自転車競技 (3%) ⑫ハンドボール (2%)・テニス (2%)・散歩 (2%) ⑮卓球 (1%) ⑯ソフトボール (0%) ⑰その他 (2%) 未回答 (1%) そ

の他（ほとんど嫌い）

（４）興味があるスポーツ

ネットを挟み、少人数でできるテニスや卓球を好む傾向がある。

《表５》

種目	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
野球	11%	5%	11%	4%	19%	3%
サッカー	0	16%	11%	4%	9%	3%
バスケットボール	0	5%	9%	8%	9%	12%
水泳	0	5%	7%	13%	0	6%
テニス	0	16%	11%	17%	13%	3%
ラグビー	0	5%	3%	0	0	0
陸上	0	16%	5%	4%	0	6%
バレーボール	0	0	1%	0	3%	6%
卓球	0	21%	7%	13%	13%	6%
剣道	0	11%	5%	4%	3%	0
柔道	11%	0	5%	4%	9%	3%
ハンドボール	11%	0	5%	0	0	3%
自転車競技	11%	0	3%	0	3%	3%
ソフトボール	11%	0	5%	0	0	0
散歩	0	0	3%	13%	0	6%
ジョギング	0	0	3%	4%	0	0
なし	45%	0	5%	4%	13%	20%
その他	0	0	0	8%	0	14%
未回答	0	0	1%	0	6%	6%

【1年全体】

①卓球（14%）・なし（14%） ③サッカー（11%）・テニス（11%）・陸上（11%） ⑥野球（7%）・剣道（7%） ⑧バスケットボール（4%）・ラグビー（4%）・水泳（4%）・柔道（4%）・ハンドボール（4%）・ソフトボール（4%）・自転車競技（4%） ⑮バレーボール（0%）・散歩（0%）・ジョギング（0%）・その他（0%）

【2年全体】

①テニス（13%） ②サッカー（9%） ③野球（8%）・水泳（8%）・バスケットボール（8%）・卓球（8%） ⑦散歩（6%） ⑧陸上（5%）・剣道（5%）・柔道（5%）・なし（5%） ⑫ハンドボール（4%）・ソフトボール（4%）・ジョギング（4%） ⑬ラグビー（2%） ⑭自転車競技（2%）・その他（2%） ⑯バレーボール（1%）

未回答（1%） その他（バドミントン）

【3年全体】

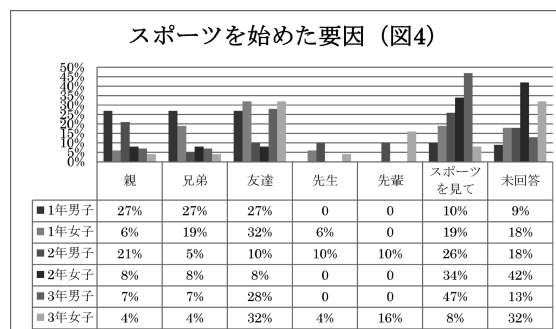
①なし（17%） ②野球（11%）・バスケットボール（11%） ④卓球（9%） ⑤テニス（8%）・その他

（8%） ⑦サッカー（6%）・柔道（6%） ⑨バレーボール（5%） ⑩水泳（3%）・陸上（3%）・自転車競技（3%）・散歩（3%） ⑭剣道（2%）・ハンドボール（2%） ⑯ラグビー（0%）・ソフトボール（0%）・ジョギング（0%）

*未回答（6%） その他（ダンス、うらじゃ、弓道）

（５）スポーツを始めた要因

「スポーツを見て」始めた人と「友達」から誘われての人が多い。



《図４》

【1年全体】

- ・親（15%） ・兄弟（22%） ・友達（29%）
- ・先生（4%） ・先輩（0%）
- ・スポーツを見て（15%） ・未回答（15%）

【2年全体】

- ・親（16%） ・兄弟（7%） ・友達（10%）
- ・先生（6%） ・先輩（6%）
- ・スポーツを見て（29%） ・未回答（26%）

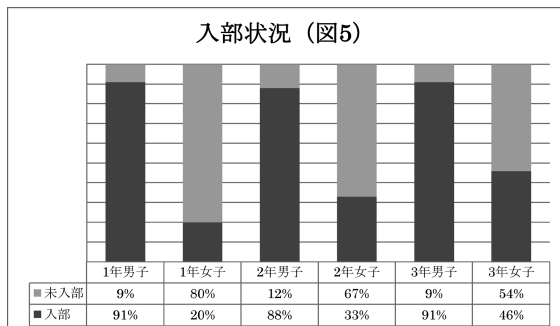
【3年全体】

- ・親（5%） ・兄弟（5%） ・友達（31%）
- ・先生（2%） ・先輩（8%）
- ・スポーツを見て（23%） ・未回答（26%）

4. 運動部活動状況

(1) 入部状況

運動部活動の入部状況は1年の男子の入部率は9割を占めるのに対して女子の入部率は2割である。2年生の男子の入部率も約9割を占めているが女子の入部率は3割である。3年生男子の入部率も9割を占めている。女子の入部率は約5割である。この結果男子は各学年とも9割が部活動に加入しているが女子の部活動加入率は全体では約3割しか加入していない。



《図5》

【1年全体】 はい（50%） いいえ（50%）
不備（0%）

【2年全体】 はい（66%） いいえ（34%）
不備（0%）

【3年全体】 はい（62%） いいえ（35%）
未回答（3%）

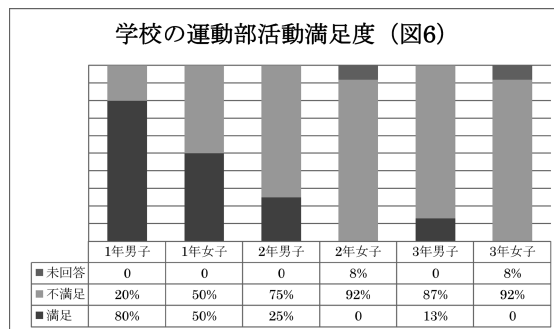
(2) 学校運動部活動に入部しない理由

入部しない一番多い理由は、運動が苦手な文化部に所属している。それ以外に「土日部活動をしたくない」・「自分の好きな部活がない」・「学校の部活動が弱いから」・「リトルリーグに所属しているから」・「体が

弱い為」・「家の仕事に遅れるから」などの理由である。

(3) 学校の運動部活動満足度

学校部活動の満足理由には、「部活をしていて楽しい」・「内容が充実している」・「先輩と交流しながら楽しくできる」・「部活動の数も充実していると思うから」・「体育の授業で活かせる」また、不満足の原因として「自分のしたいスポーツがない」・「部活が弱い」・「練習試合を組んでくれない」・「顧問が何も教えてくれない」・「部活の時間が短い」・「グラウンドが狭い」・「やる気が感じられない」。また、1年生の約7割は満足と答えているが2、3年生の約8割が満足していないとこたえている。このことから分かるように小学校から上がってきた生徒は中学校での部活動に満足していることがわかるが2、3年生の多くは満足していないことが分かる。



《図6》

【1年全体】 はい（69%） いいえ（31%）

【2年全体】 はい（14%） いいえ（82%）
未回答（4%）

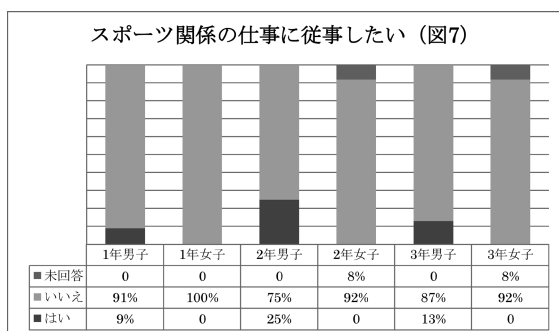
【3年全体】 はい（10%） いいえ（79%）
未回答（11%）

5. 学生の将来とスポーツの関連性

「はい」と答えた生徒は1人を除きプロ選手になりたいと思っていることがわかる。

その反面「いいえ」と答えた生徒の多くはスポーツだと将来が不安なこととスポーツに興味がないことやその他に意見が分かれておりスポーツを仕事として結びつく考えが少ないことが分かる。他にも文化系の活動のほうが好きな生徒も多くみられる。

(1) 将来スポーツに関係する仕事に従事



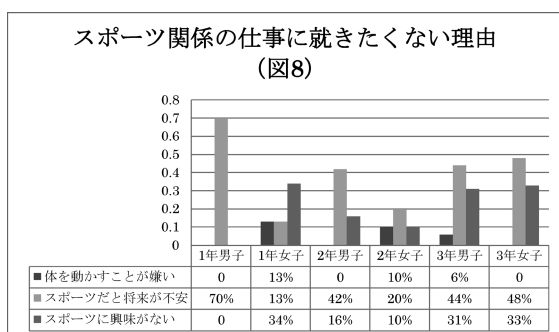
《図7》

【1年全体】 はい (4%) いいえ (96%)

【2年全体】 はい (14%) いいえ (82%)
未回答 (4%)

【3年全体】 はい (5%) いいえ (96%)
未回答 (5%)

(2) スポーツ関係の仕事に就きたくない理由



《図8》

【1年全体】

- ・体を動かすことが嫌い (8%)
- ・スポーツだと将来が不安 (36%)
- ・スポーツに興味がない (20%)
- ・その他 (36%) ・未回答 (8%)

*その他の理由

- ・大変そうだから
- ・嫌いではないが他にもいろいろしてみたい
- ・スポーツに興味がない
- ・音楽関係の仕事がしたい
- ・まだわからない

【2年全体】

- ・体を動かすことが嫌い (4%)
- ・スポーツだと将来が不安 (31%)
- ・スポーツに興味がない (13%)
- ・その他 (48%) ・未回答 (4%)

*その他の理由

- ・他に夢がある
- ・将来スポーツを好きかわからない
- ・スポーツは好きだが違う仕事をしたい
- ・デザイン関係の仕事がしたい
- ・まだ夢がない

【3年全体】

- ・体を動かすことが嫌い (3%)
- ・スポーツだと将来が不安 (46%)
- ・スポーツに興味がない (32%) ・その他 (19%)
- ・未回答 (0%)

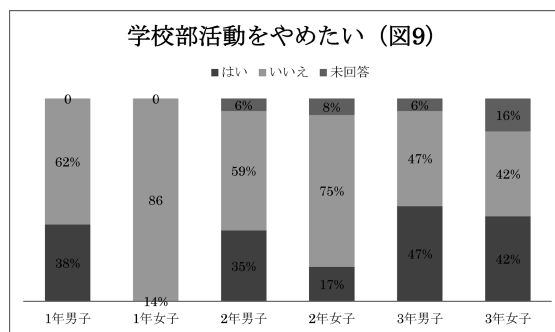
*その他の理由

- ・別のことに興味がある
- ・仕事は別
- ・夢がある

6. 学生のスポーツに対するマイナス要因

1, 2年生は「はい」が3割「いいえ」が7割を占めておりスポーツをやめようと思ったことが少ないのが分かる。しかし3年生に至っては「はい」と「いいえ」がほぼ同数であり, 1, 2年生と違った考え方を持っていることがわかる。やめようと思った生徒の多くは「体力がついていかない」と「めんどくさい」「友人関係」での問題点が上がっていることが分かる。

(1) 学校部活動をやめたい理由



《図9》

【1年全体】 はい (27%) いいえ (73%)

【2年全体】 はい (28%) いいえ (65%)
未回答 (7%)

【3年男子】 はい (43%) いいえ (44%)
未回答 (13%)

【1年全体】

- ・指導者と合わなかった (0%)
- ・怪我をしたから (0%)

- ・部活内でのいじめ（0%）
- ・体力がついていかない（25%）
- ・家庭の事情（0%）
- ・その他（75%）
 - *その他の理由
 - ・面倒くさい

【2年全体】

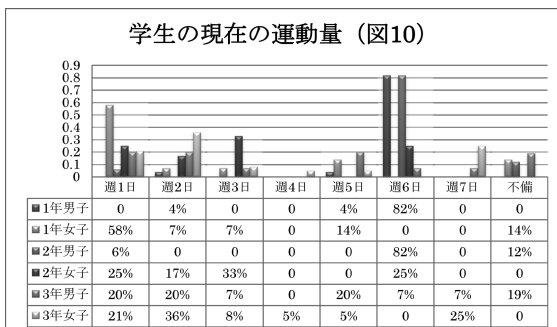
- ・指導者と合わなかった（25%）
- ・怪我をしたから（0%）
- ・部活内でのいじめ（0%）
- ・体力がついていかない（25%）
- ・家庭の事情（12%）
- ・その他（38%）
 - *その他の理由
 - ・友人関係に問題が生じた
 - ・苦しかった時

【3年全体】

- ・指導者と合わなかった（25%）
- ・怪我をしたから（0%）
- ・部活内でのいじめ（0%）
- ・体力がついていかない（31%）
- ・家庭の事情（6%）
- ・その他（38%）
 - *その他の理由
 - ・部活内で問題が生じた
 - ・面倒になった
 - ・言いたくない

7. 学生の現在の運動量（体育の授業を除く）

1, 2年生の男子, 2年生女子の約8割は週6日スポーツを行っており部活動に取り組んでいることが分かる。1年生の女子は週1日～3日までの生徒が約7割を占めており運動をあまりしていないことが分かる。しかし3年生男女は部活動を引退していることもあり運動している生徒が少ないことがわかる。



《図10》

【1年全体】

- ・週1日（32%）
- ・週2日（8%）
- ・週3日（4%）
- ・週4日（0%）
- ・週5日（12%）
- ・週6日（36%）
- ・週7日（0%）
- ・不備（8%）

【2年全体】

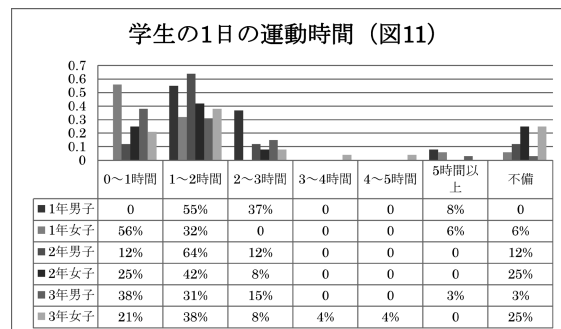
- ・週1日（14%）
- ・週2日（7%）
- ・週3日（14%）
- ・週4日（0%）
- ・週5日（0%）
- ・週6日（58%）
- ・週7日（0%）
- ・不備（7%）

【3年全体】

- ・週1日（20%）
- ・週2日（31%）
- ・週3日（8%）
- ・週4日（2%）
- ・週5日（10%）
- ・週6日（3%）
- ・週7日（18%）
- ・不備（8%）

8. 学生の1日の運動時間

図11を考察した結果ほとんどの生徒が約1時間～2時間程度のスポーツ又は部活動をしている事が分かる。しかし野球部の生徒の多くは2時間～3時間練習をしている事が分かる。



《図11》

【1年全体】

- ・ 0～1時間 (33%)
- ・ 1～2時間 (41%)
- ・ 2～3時間 (15%)
- ・ 3～4時間 (0%)
- ・ 4～5時間 (0%)
- ・ 5時間以上 (7%)
- ・ 不備 (4%)

【2年全体】

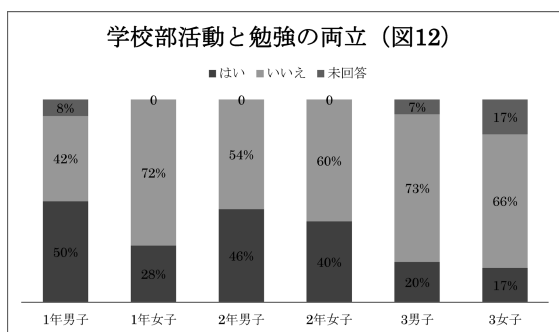
- ・ 0～1時間 (17%)
- ・ 1～2時間 (55%)
- ・ 2～3時間 (11%)
- ・ 3～4時間 (0%)
- ・ 4～5時間 (0%)
- ・ 5時間以上 (0%)
- ・ 不備 (17%)

【3年全体】

- ・ 0～1時間 (27%)
- ・ 1～2時間 (35%)
- ・ 2～3時間 (11%)
- ・ 3～4時間 (2%)
- ・ 4～5時間 (3%)
- ・ 5時間以上 (3%)
- ・ 不備 (19%)

9. 学生のスポーツと勉強の関連性

(1) 学校部活動と勉強の両立



《図12》

【1年全体】 はい (38%) いいえ (58%)

不備 (4%)

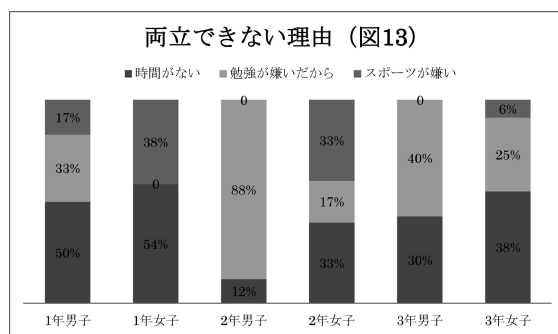
【2年全体】 はい (44%) いいえ (56%)

不備 (0%)

【3年全体】 はい (18%) いいえ (69%)

不備 (13%)

(2) 学校部活動と勉強の両立ができない理由



《図13》

【1年全体】

- ・ 時間がない (53%)
- ・ 勉強が嫌いだから (10%)
- ・ スポーツが嫌い (32%)
- ・ その他 (0%)
- ・ 不備 (5%)

【2年全体】

- ・ 時間がない (22%)
- ・ 勉強が嫌いだから (57%)
- ・ スポーツが嫌い (14%)
- ・ その他 (7%)
- ・ 不備 (0%)

【3年全体】

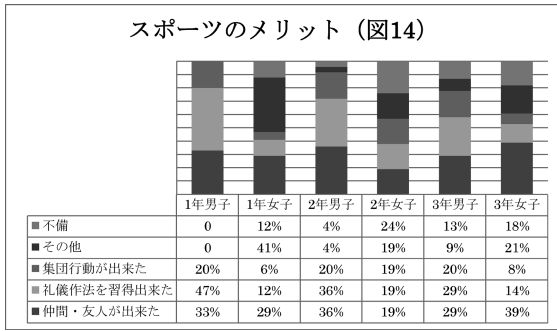
- ・ 時間がない (34%)
- ・ 勉強が嫌いだから (31%)
- ・ スポーツが嫌い (4%)
- ・ その他 (27%)
- ・ 不備 (4%)

1年生の男子のみスポーツと勉強を両立させている生徒が50%を占めているが、それ以外の学年の男女は両立していない生徒は6割～7割を占めている事からほとんどの生徒がスポーツと勉強を両立させることができない事がわかる。

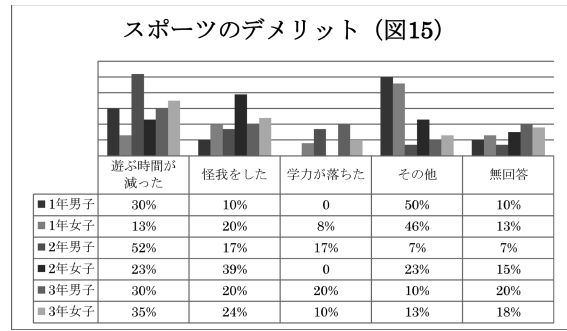
10. 学生のスポーツのメリット、デメリット

(1) スポーツのメリット (スポーツで何か得した、手に入れた物)

男子では「仲間・友人が出来た」という答えが多く見られる。女子では、「リフレッシュになった」等、気分転換等の意見が多かった。



《図14》



《図15》

【1年全体】

- ・仲間・友人が出来た (31%)
- ・礼儀作法を習得出来た (28%)
- ・集団行動が出来た (13%)
- ・その他 (22%)
- ・不備 (6%)
- ・その他 たくさんの競技を知った・スポーツの意味を知った・気持ちが楽になる・リフレッシュになった・体力がついた・仲間を信用する・強気で言う気持ち

【2年全体】

- ・仲間・友人が出来た (29%)
- ・礼儀作法を習得出来た (29%)
- ・集団行動が出来た (20%)
- ・その他 (10%)
- ・不備 (12%)
- ・その他 体力がついた・楽しさを知った

【3年全体】

- ・仲間・友人が出来た (35%)
- ・礼儀作法を習得出来た (21%)
- ・集団行動が出来た (14%)
- ・その他 (15%)
- ・不備 (15%)
- ・その他 力がついた・友の大切さ・思い出

(2) スポーツのデメリット (スポーツで何か損したこと, 失った物)

ほとんどの生徒が遊ぶ時間が減ったこと, 怪我をしたことに分かっているが, 体調を崩した, 学力が落ちたと書いている生徒も見られる。

【1年全体】

- ①遊ぶ時間が減った (20%)
- ②怪我をした (16%)
- ③学力が落ちた (4%)
- ④その他 (48%)
- 無回答 (12%)
- その他 風邪をひいた

【2年全体】

- ①遊ぶ時間が減った (40%)
- ②怪我をした (27%)
- ③学力が落ちた (10%)
- ④その他 (13%)
- 無回答 (10%)
- その他 時間が無くなった・親に勉強するように言われた

【3年全体】

- ①遊ぶ時間が減った (33%)
- ②怪我をした (23%)
- ③学力が落ちた (14%)
- ④その他 (12%)
- 無回答 (18%)
- その他 やる気・時間

11. 学生のスポーツの存在価値

(1) あなたにとってスポーツとはどのような存在ですか？

1年全体では, 良い理由として, 「楽しい・体力がつく・大切・心がウキウキする・必要な物・リフレッシュになる・友達みたいなもの・仲間との絆を深める・集団行動を学べる」。また, 悪い理由として「大変・面倒くさい・あまり楽しくない・しんどい・怪我をして面白くない」。

2年全体では, 良い理由として, 「あって欲しい・大切・元気が出る・友人と楽しい時間・生きがい・命・楽しみ・友人が出来る・団結を深める・ストレス

発散・ないと落ち着かない・体を鍛える・ダイエット・体力作り・見るのが好き・時間があればしてみたい」。また、悪い理由として、「やるのは嫌い・どうでもいい」。

3年全体では、良い理由として「楽しい・生活の一部・命・最高・遊び・生きる力・一番自由に出来る・体力づくり・体を動かす・大切な物・ストレス発散・特別な存在・嫌な事を忘れられる・体を動かす大切さ・見ると楽しい・癒し」。

また、悪い理由として「悪・暇つぶし・やりたくない・だるい存在」

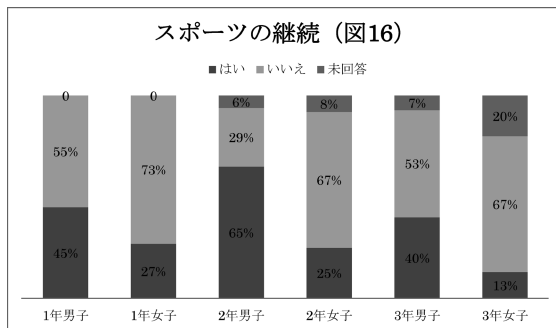
主に生徒達はスポーツに対して楽しい、友人が出来るという良いイメージを持っている生徒が多い。しかし中には悪いイメージとして怪我をしてしまう、だるいと思っている生徒もいる。

12. 学生の今後のスポーツ状況

(1) 今のスポーツを卒業しても高校でやりますか？

(はい・いいえ)

高校ではアルバイトが出来、遊ぶ事が多く、それに中学とは違い勉強の面でも両立する事が難しい為高校でも続けようと思う生徒が少ない。



《図16》

【1年全体】 はい (35%) いいえ (65%)

【2年全体】 はい (48%) いいえ (45%)
未回答 (7%)

【3年全体】 はい (23%) いいえ (62%)
未回答 (15%)

(2) 高校で続ける理由・続けない理由

1年全体では、「はいの理由」として、「楽しいから・高校でもやったら楽しそうだから・スポーツが好きだから・野球が好きだから」。「いいえの理由」として「だるい・やりたくない・他の部活をしたい・勉強がしたい・やりたいけど高校であるかわからない・両

立するのが難しい・嫌い・忙しい・今もあまり行っていない・別に意味がない・運動が苦手・めんどい・勉強に専念したい」

2年全体では、「はいの理由」として、「上手になりたい・続けたい・自分にあっている・楽しい・好き」。「いいえの理由」として、「自分のしたいスポーツがある・バイトがしたい・勉強がしたい・まだ決めていない・楽しくない」

3年全体では、「はいの理由」として、「3年間やったから・動きたい・野球が好き・楽しいから・やりたい・教えてくれた先生に恩返し」。「いいえの理由」として、「勉強に専念する・めんどい・帰れない・高校はやらない・体力がついていかない・文化部に入りたいから・時間がない・忙しい・他にやりたいスポーツがある・スポーツが苦手・やりたくない・だるい」。

VI. 考察および方策

上記のアンケート結果をもとに、Y中学校における優れている点・課題をあげ学生の運動に対する意識を向上させる一助としたい。また、この地域にある総合型地域スポーツクラブと中学校が、協力し合い、今後のスポーツクラブの定着・発展のための方策を考察することとする。

① Y中学校の生徒は全体的にスポーツが好きで運動に活発な生徒が多いことが分かる。その中でも誰でも一度は経験した事のある、メジャーなスポーツを好んでいる。

しかし肉体的接触が多い武道を嫌う傾向がある為、体育の授業で取り入れる事で、武道の大切さや楽しさを感じ礼儀作法も学ぶ事が出来ると思う。さらに最近は子供たちが被害にあう事件が多いのでそれらから自分の身を守る方法も学べる事からも武道は必須である。

また体育の授業で行われる事の多いスポーツ(テニス・野球・サッカー)に興味を持っているので、体育の授業で深く学ぶ事でスポーツの大切さを理解できる。あまり興味のないスポーツ(ラグビー・ソフトボール)に関しては体育に取り入れることにより考え方の変化が見られると思われる。

② 学校の部活動の問題については、全学年の部活動(運動部)の所属率は約6割であり4割の生徒は部活に所属していない。所属していない生徒の理由の中でも解決できるものがある。自分の好きな部活動

が無いという理由に対しては、上記の中で記載した興味があるスポーツの上位3つを部活動として始めることで解決出来る。

また所属している生徒の満足度は、1年生を除き約8割の生徒が満足していない。その理由として練習環境の問題（部活の時間が短い・グラウンドが狭い）が挙げられており練習時間の増加・練習場所の確保、工夫が求められる。練習環境だけでなく、顧問の指導方法にも不満が生じている。具体的には顧問から直接的な指導・練習の工夫の少なさ、他校との練習試合が少ないことなどが挙げられる。生徒だけでなく顧問の先生の意識も向上する必要がある。

また部活動を辞めようと思ったことのある生徒が各学年3割～4割いることが分かる。友人関係に問題が生じたため部活動を辞めようと思ったという理由に対しては、顧問の広い視野と気遣いが求められている。

- ③ Y中学校の約7割はスポーツと勉強を両立させていないこの結果からスポーツをすることで学生の本分である勉強が疎かになっている。

部活動を一生懸命取り込むことも大切だが勉強をすることも学生の重要な役割である為、顧問と担任の先生方の支えや指導が大切になってくる。

- ④ 部活動内での友人関係については、部活動に所属している男子の生徒の多くはクラブの仲間同士が仲が良いと答えているのに対して女子は生徒の半分しか仲がいいと答えていない。

男子の友人関係と違い女子の友人関係は複雑であり生徒だけでは解決することができない問題も多くみられる。そのため男子の生徒以上に先生の気遣いやサポートが必須になってくる。

- ⑤ Y中学の生徒の多くはスポーツに対して楽しい・友人ができるなど良いイメージを持っている。そのためスポーツを見る楽しさ・運動する楽しさを感じ生活の一部として感じていることがわかる。

しかしスポーツは怪我をしてしまうもの・だるいものと思っている生徒がいることも事実であり、体育や部活動での先生や顧問の工夫が必要になってくる。

VII. 結論

3年前にこの地域に、若い人からお年寄りまで幅広くそれぞれの体力や経験などを考慮し、住民のライフスタイルに合った運動を行い地域の活性化を目的に総合型地域スポーツクラブが創設され、少しずつではあるが、会員数も増加し、TOTOの補助と、会員の年会費で、運営している。今回この地域の中学校の生徒のスポーツ意識調査で、生徒数の激減、スポーツ離れ、教員の高齢化、専門の指導者不足など、農村型の地域にみられる典型的な中学校である。しかし、この地域には、総合型地域スポーツクラブがある。学校部活動について、スポーツクラブが協力し合える地域になることが、今後の課題である。

参考文献

1. 論文

- ・大橋美勝他（1990）「地域スポーツクラブ連合形成・定着発展・崩壊過程の研究」昭和63年度・平成元年度科学研究補助金（総合研究A）研究成果報告書
- ・山本孔一（2003）「総合型地域スポーツクラブに関する研究－文化の里スポーツクラブの事例－」愛媛大学大学院 教育学研究 pp. 1-4, pp. 19-68
- ・堺賢治・藤原誠・山本孔一（2004）「総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査」－愛媛県上浮穴郡久万町の場合－愛媛大学教育学部紀要第51巻第1号 pp. 115-120
- ・山本孔一・堺賢治・黒川真由（2009）「総合型地域スポーツクラブに関する事例研究（6）」－宇和島AITANスポーツクラブの場合－愛媛女子短期大学紀要第19号 pp. 15-29
- ・山本孔一・堺賢治・塩原正長（2011）「総合型地域スポーツクラブ設立のための住民調査（2）」－吉井スポレククラブの場合－環太平洋大学紀要第4号 pp. 133-144

2. 参考資料

- ・三菱総合研究所（1996）「地域スポーツクラブの育成と地域課活性化に関する調査」
- ・赤磐市教育委員会（2010）平成21年度 赤磐市スポーツ振興計画 pp. 4
<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/sposhin/sportssinngi2.pdf#search='平成19年度 第2回 岡山県スポーツ振興>

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/sports/detail/___icsFiles/afieldfile/2010/01/29/1234765_2.pdf#search='岡山 総合型地域スポーツクラブ 課題'

- ・平成21年度策定 赤磐市スポーツ振興計画

<http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/sposhin/sportssinngi2.pdf#search='平成19年度 第2回 岡山県スポーツ振興'>

- ・財団法人日本体育協会 - 総合型地域スポーツクラブ -

<http://www.toto.naash.go.jp/jiseki/jiseki3/sinko/jiseki/2-001/2-001-84.html>

- ・文部科学省（2001）「総合型地域スポーツクラブ育成マニュアル～クラブづくりの4つのドア～」